

# 2020年に向けて 大分で最高のコンディションを

大分市が、フェンシングサークル日本代表チームの、東京2020オリンピック競技大会（以下、東京五輪）事前キャンプ地に決まりました。今回は、日本フェンシング協会の太田雄貴会長に、事前キャンプの見どころや抱負をお伺いしました。

## ”会いにいけるアスリートへ” 熱いエールを直接送ってほしい

**大分市をキャンプ地に選んだ理由は？**

一番大きな理由は選手たちからの「大分でやりたい」という声です。日本フェンシング協会は、選手たちの望む状態で練習や試合の環境をつくる「アスリート・ファースト」を心掛けています。大分市には過去にもキャンプを開催していただいていますし、実はわたしがメダルを獲得した北京五輪のときの事前キャンプも大分市でした。

大分市は食べ物が美味しく、温泉もあるし、人も優しい。そういった環境や風土が選手たちにとっても好印象だったのだと思います。ゲンを

担いだというわけではありませんが、選手たちから「大分市で」という声が上がってわたし自身もうれしいです。

**キャンプの見どころは？**

見どころは、選手と身近に触れ合えることです。会に行けるアスリートならぬ、会に行けるアスリート。“メジャーな競技では選手たちとの距離も遠いですが、フェンシングは実際に選手たちと言葉を交わすことも可能です。「頑張つて」と声を掛けた選手がメダルを取るかもしれません。ぜひ、選手たちに直接エールを送ってほしいです。

**フェンシング普及に対しての考えは？**

協会では、今後10年で現在の協会登録人数を6千人から5万人まで増やすという目標を挙げています。この数字は競技人口を増やすという意味だけでなく、見る・支える・応援してくれる人など、いろんな形で関わっていただける人たちも含めての数字です。フェンシングをもっと盛り上げる環境をたくさんつくること。それが結果として競技人口を増やすことに直結するはずですよ。

**東京五輪への目標や思いは？**

メダルの目標数、競技目標などはありませんが、わたしの会長としての役目は、選手たちそれぞれがベストパフォーマンスを発揮し、悔いのない素晴らしい大会だったと思えるような環境をつくること。そして東京五輪を通して、大分市民の皆さんにどう還元できるか。今回のキャンプが一部の人だけのキャンプになってしまつては意味がありません。フェンシングという種目を、市民の皆さんが応援したんだという連帯感を得

られるようにしたいと考えています。また大分には、全国大会や国体などで優勝するような、五輪に出場可能な実力を持った素晴らしい選手たちがそろっています。全国的に見てもこのような地域はそうそうないので、このチャンスをぜひモノにしてほしいと思っています。

**最後に市民へメッセージをお願いします**

わたしが現役時代に経験した大分市での事前キャンプでは、本当に素晴らしい練習環境を与えていただきました。みんなが一致団結して「日本人で初めてメダルを取ろう」という空気をつくってくれたことが、メダルへの後押しになったと感じています。

2020年、日本で開催する五輪で、国民の声を応援に感じるのか、プレッシャーに感じるのかは、選手たちのこれからの過ごし方によって変わるでしょう。そんな中で事前キャンプは、選手たちのコンディションを整える非常に重要な役割を担っています。最高の結果が出るように協会としても支援していきますので、大分市民の皆さんもフェンシングに興味を持っていただき、事前キャンプをぜひ見に来てくださいね！



現役時代の太田会長



2016年3月 8カ国が参加した合同合宿の歓迎会



2017年3月 4カ国が参加した女子合同合宿（コンパルホール）



2017年12月20日、調印式が行われた。写真左から県フェンシング協会の北野会長、太田会長、二日市副知事、佐藤大分市長



2017年3月 日本代表の選手によるフェンシング教室(県立総合体育館)

公益社団法人日本フェンシング協会  
会長 太田 雄貴氏

フェンシングフルーレ元日本代表。メダル獲得歴は、2008年北京五輪・個人銀、2012年ロンドン五輪・団体銀、2014年アジア競技大会（仁川）・個人銅 / 団体金、2015年世界選手権（モスクワ）・個人金。2016年のリオ五輪後は現役を引退し、2017年より日本フェンシング協会会長に就任、後進の育成と競技の普及に情熱を注ぐ。京都府生まれの滋賀県大津市育ち、32歳。

